

令和 8 年 8 月 14 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
東大阪市立日新高等学校	東大阪市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
東大阪市立日新高等学校	https://nisshin-h.ed.jp/wp-content/uploads/2026/08/9e116ed6e717ec600bdf1c13a798d878.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
東大阪市立日新高等学校	https://nisshin-h.ed.jp/wp-content/uploads/2026/08/8711d408e310cfaab2f655844704719f.pdf	https://nisshin-h.ed.jp/wp-content/uploads/2026/08/8711d408e310cfaab2f655844704719f.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

前年度に ALT（外国語指導助手）を 2 名増員して 6 名体制とし、英語の授業での指

導に加え、体育、家庭基礎、数学教養、数学探究などの科目において、日本人教員と ALT のチームティーチング (TT) による英語イマージョン授業を実施している。これにより、計画に沿って特別の教育課程を展開することができている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している
- ☐ 実施していない

<特記事項>

学校公式ウェブサイトや公式 SNS (Instagram) を通じて取組を広く発信しているほか、東大阪ケーブルテレビで放送された本校の取組の様子が東大阪市公式 YouTube チャンネルで配信されている。また、学校説明会や学校見学会での紹介に加え、教員および教育関係者を対象とした年 1 回の公開授業においてイマージョン授業を実施するなど、多角的な情報提供に努めている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、より実践的な英語力向上およびグローバル社会において主体的に活躍できる人材の育成をめざし、従来の英語の授業にとどまらず、英語以外の授業においても日常的に英語へ触れる機会を確保するものである。これにより、生徒の英語に対する抵抗感が払拭されるとともに、ALT やクラスメイトと英語で積極的にやり取りしようとする姿勢や、英語や外国に対する興味の向上といった成果が上がっている。一方で、生徒間の元々の英語力や学習意欲に差があることから、イマージョン授業に対する理解度や発話量に個人差が生じている点が課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「体育」や「家庭基礎」等の学習指導要領に基づく科目では規定の内容を英語で実施する一方、学校設定科目である「数学教養」や「数学探究」では本特例の趣旨や生徒の実態に合わせた探究的なイマージョン授業を展開している。日常の学習では得がたい実践的な言語表現が身につくだけでなく、英語で思考・発想する楽しさを実感することで、教科に対する探究心や主体的な学習態度の向上が図られている。一方で、学習内容が高度化するにつれて、より専門的な内容を英語で思考することへの難しさが見られる。教科本来の目標達成 (知識・技能の確実な習得) と英語理解・思考力の向上を両立させるための教材開発や日本人教員と ALT の指導計画作成に関わる負担軽減などが課題となっている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

今後は、生徒の個人差に応じた段階的サポート（視覚教材の一層の活用や適切な日本語での補足指導等）を充実させ、高度で専門的な内容においても各教科の確実な理解と思考力の深まりを図っていく。

指導体制においては、独自作成した教材の校内共有・蓄積を進めて教材開発の効率化を図るとともに、日本人教員と ALT の協議プロセスを共通化・効率化し、持続可能な指導体制の構築をめざす。